

平成27年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）実施段階

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>努力する心をはぐくみ、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい生徒の育成を目指す。あわせて、自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。また、あらゆる教育活動を通して、生命と基本的人権を尊重する態度や実践力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生としての身だしなみやマナーに重点を置いて指導し特に女子生徒のスカート丈やネクタイ・リボンの着用の改善に成果をあげた。今後も規範意識及び社会性を醸成するために教職員の共通理解の下で統一した指導を継続する必要がある。 ・ 授業規律の確立に重点を置き、良好な教育環境のもととなる「穏やかなクラスづくり」にも一定の成果をあげたが、学力の向上にはほど遠い実態である。「分かりやすい授業」とともに「力をつける授業」を一人ひとりの教員が意識した上で、教科としての取組が必要である。 ・ 「TAG城陽」の取組を地域の人材を生かして一層発展させ生徒に「なりたい自分」を考えさせ、生徒の進路意識を醸成するとともに、高校卒業後の進路保障の取組の強化が必要である。 ・ 1年生の全員部活動等加入・活動を推進するとともに、Joyo Advance Clubの育成に努め、部活動の一層の活性化に向けて競技力の向上のみならず学校全体・地域との関わりを持った具体的な取組を実施する必要がある。 	<p>地域から信頼される地元の公立高校として、生徒一人ひとりが夢と目標を持って、生き生きと過ごすことができる輝きある学校づくりをすすめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 厳しさの中に愛情のある指導によって心身の健全な発達を促し、心豊かでたくましく輝きある高校生を育成する。 2 基礎基本を徹底した「わかる授業」を基盤に生徒ひとり一人が「わかる喜び」を実感できる授業を実践し、個に応じた「確かな学力」を身に付けさせる。 3 生徒一人ひとりが、将来の「なりたい自分」を考え、学び、行動する習慣づくりに取り組み、より高い夢ある進路希望の実現及び自立した人間の育成を目指す。 4 部活動の活性化をはじめ学校生活全体を充実させ、生徒が3年間の自己の成長を実感し、主体性を持って社会的に自立できる力を身に付けさせる。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	教育の質的向上を図るためのシステムを確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各分掌・教科が学校経営計画を作成し、学校関係者評価委員会、学校評価会議で達成度・課題を明確にする。 ・ 保護者、関係者及び生徒アンケートの実施・集計・分析結果を学校関係者評価委員会、学校評価会議で検討する。 	B B B B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画に従って実施しているが、生徒の実態の変化に応じた課題の明確化と具体的取組が必要である。
教育課程の編成と実施	27年度教育課程の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新学習指導要領の趣旨を徹底し、地域や本校生徒の状況を踏まえて、教育課程を実施し本校の特色化を推進する。 	B B B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後新たな指導要領や新テストの実施を念頭においた教育活動の推進と本校の特色化に取り組む必要がある。
教科指導	基礎学力を定着させる。 教科指導力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生対象の「基礎固め学習会」を生徒の実態に応じた指導内容に工夫・改善し、個に応じた「確かな学力」を身につけさせる。また、夏休みと冬休みには全学年の成績不振者対象の基礎補充を行い、「確かな学力」を身につけさせる。 ・ 授業規律を徹底し、授業環境を整え授業を大切に指導を行う。 ・ 学習道具を持ち帰らせ、家庭学習の定着化を図る。 ・ 教員が研究授業・公開授業に参観しやすい環境づくりを行い、教員が相互に研鑽に努めることにより、「わかる授業」の実践・生徒の学力保障を目指す。 ・ 年間指導計画や年間授業計画の改善を行い、効果的な指導を工夫する。 	B B B B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「基礎固め学習会」はより効果的に実施できた。夏休みの「基礎補充」前期・後期、冬休みの基礎補充を対象を広げ実施した。次年度も一層の基礎学力の充実を図る。 ・ 授業規律の確保はほぼ定着した。今後一層授業環境の改善に努めるとともに授業内容の改善に力を注ぐ。 ・ 公開授業・研究授業については、計画に沿ってすすめ、「アクティブラーニング」等の授業形態についても実践が増えた。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
生徒指導	学校生活を中心に据えた基本的な生活習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立に向けて、HR掲示や学年集会、全校集会などを通じて啓発指導を行う。 年間をとおして服装・頭髪・装身具などの身だしなみ指導と毎日の登下校時に校門や水度参道で、通学マナーや交通ルールの指導を行う。 校門での遅刻指導を学年とも連携し重点的に行う。遅刻数に応じて課題を設定し、常習的に遅刻をさせないように指導する。また、各家庭との連携を密に行う。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ指導はより細やかな指導が行えた。 通学マナーについては通学路下校指導により成果があった。
特別活動	入部率を高め、部活動、生徒会活動、ボランティア活動を活性化させる。	<ul style="list-style-type: none"> 新入生に対し、部活動紹介や部活動体験を行う。全体の入部率を男子は80%、女子は60%に向上させる。Joyo Advance Clubには意識の向上と活動の活性化のための指導を行う。 生徒会活動を中心として、各委員会やボランティア活動を活性化させる。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 女子の体育系入部率が依然低い。今後も活動の活性化に向けた取組を継続する必要がある。 Joyo Advance Clubについては、中学校には理解を得た。来年度は構成部の見直しを進める。
人権教育	豊かな人権感覚を育てるために、学年や分掌と連携して、人権教育を計画的に実施し、人権尊重の実践的態度を育む。さまざまな人権問題について学習を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 新たな人権学習のあり方を検討し、実行する。 年2回、教職員人権教育研修会を行う。 「人権教育だより」の発行を通して、人権教育をすべての全教職員にフィードバックする。 	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 計画に従い実施できた。 若手教職員対象のフィールドワーク等の研修を実施した。 分掌、教科などにおける人権学習の内容の調査は予定通り行った。
進路指導	生徒の進路意識を早期に高め、受験に向けた学力を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりが将来の「なりたい自分」を考える機会として、「どれ道学習」や「分野別進路ガイダンス」等の進路学習を充実させる。 生徒が主体的に学び、より高い夢ある進路希望を実現できるように、就職・進学補講、土曜教室、業者模試を効率的に実施する。 教職員や生徒に最新の進路情報を適切に提供するため、進路指導研究協議会や進路関係業者と連携し、進路研修会等の実施や「進路だより」の発行、有益な進路情報誌の配布等を行う。 	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> TAG城陽の取組は「どれ道学習」を1年で実施した。 景気の好転により高校生の就職状況は良くなっており、学校斡旋就職は100%達成した。 次年度は土曜教室をより明確な結果が期待できるよう実施する。
安全管理	生徒が安心して学べるように環境整備・校内美化に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 美化・安全点検を日常的に行い、環境美化活動を活性化させ、校内とその周辺部の美化と安全管理に努める。 保健委員会活動を推進し、委員会ニュース等を活用して、健康や校内美化の啓発に努める。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア清掃に積極的に取り組めた。継続していきたい。 来室生徒については各部と連携を取り対応を行った。 SST研修を、学年行事の中に取り入れ、系統的に取組を進め、成果が現れている。

財 務	環境保全に配慮した、電気・ガス・水道の使用量の節減及びゴミの削減を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 電気・ガス・水道の使用についての節減を生徒及び職員に伝達し、前年度の使用量を基準に1%以上削減し、その成果表を作成する。 持ち込みゴミの持ち帰り等ゴミ削減に向けた方法を、生徒及び教職員に伝達し、前年度のゴミ(可燃)搬出量を基準に1%以上削減し、その成果表を作成する。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 電気の使用は4%減少できたがボランテア清掃時の持ち帰りゴミのゴミ処理費用増加した。 節電に向けて「城陽エコサマー」を設け、教職員の意識改革を行い、デマンドを活用し、職員室・事務室等の電灯の消灯、クーラーの運転停止等に努めた。
広報活動	地域からの信頼や期待に応えられる学校づくりや本校の取り組みを積極的に発信する。	<ul style="list-style-type: none"> 山城合同学校説明会及び本校学校説明会・部活動体験・個別相談会を各部活動顧問や分掌と連携し、本校の特色を明確にする。 城陽高校NEWSを4回以上発行し、ホームページメールサービス等を利用して本校の特色や取組状況等を外部に向けて積極的に情報発信する。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度より学校説明会・部活動体験者が微増した。 城陽NEWSは予定通り4回発行し、本校の情報を外部に発信した。 ホームページはできるだけこまめに情報を発信している。
学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で通学マナーの改善・遅刻防止の取組等に対するお褒めの言葉をいただいた。 城陽高校の特色・特長の地域への発信を一層強化すべきである。 進路保障につながる学力や意識の育成に一層力を入れる。 					
次年度に 向けた改善の 方向性	<p>以下の指導に重点を置き、中期目標の達成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育を系統的に実施する。特に「TAG城陽」の取組を地域の人材を生かして一層発展させ、生徒に「なりたい自分」を考えさせる。 遅刻防止の取組等、高校生としての生活に最重点をおく指導を徹底し、規範意識及び社会性を醸成する。 1年生の全員部活動等加入を継続し、Joyo Advance Clubを中心に、部活動の一層の活性化に向けて具体的な取組を実施する。 特別支援教育の視点を持って、「分かりやすい授業づくり」と良好な教育環境のもととなる「穏やかなクラスづくり」を実現する。 授業規律の維持と、学力の伸長を一層はかるための教職員の研修及び学校全体の取組を行う。 土曜日を有効に活用した取組を実施し、進路保障につながる学力を育成する。 広報活動を一層強化し、地元の方々や中学校・教育関係機関に信頼される「地域に信頼され共に歩む公立高校」を目指す。 					